

アンサンブル・フィアツェン

# Ensemble14 第3回演奏会

2001年 3月17日(土) 15時開演

すみだトリフォニーホール 小ホール

## 第3回演奏会に寄せて・・・

本日はようこそお越しくございました。

早いものでこのグループがカンタータの演奏会をするように成って足掛け3年目になります。その間、本当に数々の名曲を演奏してきました。・・・それなりの演奏で！

今日皆様にお届けするカンタータのうち、22番23番は、バッハ自身が1723年ライプツィヒのトーマス教会のカントールに応募した時の就職採用試験への提出作品です。我々が、この新世紀の新年度を迎えるにあたり、こういう選曲をした・・・かどうかは定かではありませんが、結構力の入った、工夫のちりばめられたバッハの努力の結晶であるカンタータをお聴き下さい！

ソリストは、今回も団員の中でオーディションをして決定しました。ですから責任は私にあります。温かいお心で受け容れて下さい。いつも我々の演奏を支え、高みへと引き上げて下さる管弦楽の皆様と、今後も我々はバッハと共に歩んでまいります。

皆様もどうぞ一度見学にいらして下さい！ オーディション無しで大歓迎致します！ エッ？！  
バッハの就職はどうなったかって！？

ご安心下さい。めでたく採用されました。

辻 秀幸



## § プログラム §

### カンタータ22番 『イエス十二弟子を召寄せて』

Kantate Nr.22 "Jesus nahm zu sich die Zwölfe" BWV 22

(1)大石 峰士[T]、木下 陽児[B] (2)中神 康一[A] (3)太田 浩樹[B] (4)山田 陽史[T]

### カンタータ48番 『われ悩める人、われをこの死の体より』

Kantate Nr.48 "Ich elender Mensch, wer wird mich erlösen" BWV 48

(2)中神 康一[A] (4)木下 祐子[A] (5)内藤 秀司[T] (6)室橋 義明[T]

( 休 憩 )

### カンタータ23番 『汝まことの神にしてダビデの子よ』

Kantate Nr.23 "Du wahrer Gott und Davids Sohn" BWV 23

(1)木藤 裕子[S]、中神 康一[A] (2)小泉 孝博[T]

作曲 ヨハン・ゼバスティアン・バッハ  
Johann Sebastian Bach (1685~1750)

指揮 辻 秀幸  
声楽 Ensemble14  
管弦楽 Millennium Bach  
Ensemble

ヴァイオリン 大西 律子  
鍋谷 里香  
ヴィオラ 続橋 直子  
チェロ 伊藤 さやか  
コントラバス 柳沢 智之  
トランペット 平井 志郎  
オーボエ 佐々木 美和  
川人 大地  
ファゴット 笹崎 雅通  
オルガン 能登 伊津子

## カンタータ22番 『イエス十二弟子を召寄せて』

Kantate Nr.22 "Jesus nahm zu sich die Zwölfe" BWV 22

用途：トーマス・カントル採用試験；復活祭前第7日曜日

初演：1723年 2月 7日 ライプツィヒにて

BWV22は、本日3曲目に演奏されるBWV23とともにトーマス・カントル採用試験に際して演奏された。これに合格し晴れてカントルに採用されたバッハは、その職務上の必要性から、BWV75を手始めに1723年に27曲、24年に51曲、25年に28曲、26年に27曲と精力的にカンタータを制作する。数々の名作が生み出されたライプツィヒ時代の始まりである。

この曲では、「人の子について書かれたことは全て実現される」と自らの受難を予告するイエスに対する弟子の無理解と、それを自らの問題に置き換え、イエスへの信仰を誓いエルサレムへ行くことを決意する信徒の姿が描かれている。第1曲は、「見るがいい。我々はエルサレムへ行く。」と弟子を前にして言うイエスの姿がベースソロにより歌われ、続く合唱部でイエスの言葉を理解しない弟子達の様子が歌われる。テンポの速い合唱フーガは、さながら当惑する12人の弟子達のざわつきのような。

第2曲では、弟子達とは対照的に「エルサレムへ行き、イエスの受難

に立ち会う」決意をした信徒の姿が歌われる。舞曲的リズムでありかつ短調であるこの曲は、イエスを信奉する喜びと、受難に立ち会う苦しみを併せ持つ信徒の心を描いているのであろうか。弟子達の無理解を自らの問題と捉える信徒は、それを欲望に満ちた自らの肉体と血のせいであるとする。

第3曲では、「血と肉」で現される欲望を十字架にかけ、イエスの言葉を完全に理解しようとする信徒の姿が、ベースのレチタティーヴォにより歌われる。「千の喜びとともにエルサレムに行く」と歌う最後のフレーズとそれ以前の動きの対比が印象的である。

第4曲のテナーアリアでは、肉体から解放された精神へと視点が移る。その軽快なリズムは、さながら「肉体」に象徴される地上から解放された、翼を得た精神が空を舞う様子を現しているかのようである。

そして終曲では、オーボエと第1ヴァイオリンが生み出す美しい流れに乗り、キリストの恵みによる死と再生を願う信徒の姿を合唱が歌って終わる。

(T.Oishi)

## カンタータ48番 『われ悩める人、われをこの死の体より』

Kantate Nr.48 "Ich elender Mensch, wer wird mich erlösen" BWV 48

用途：三位一体節後第19日曜日

初演：1723年 10月 3日 ライプツィヒにて

カンタータ48番は本日演奏の22番、23番と同年にライプツィヒにて初演された。しばらく教会音楽から離れていたバッハは、カントルに採用された後、精力的にカンタータの作曲を行ったと伝えられる。

48番は、主イエス・キリストが中風の病で苦しむ者を癒したという奇跡を題材としている。聖書のなかでは、イエスが病を治す力よりも、この世の中で罪を赦す権威を持っていることを人々に知らしめるために奇跡を行ったとされており、カンタータでもこの点が強調されている。

第1曲。「死すべき私を一体誰が救ってくれるのか」という苦悩と、にもかかわらず救いを信じられない悔みさが、深い淵から次々とわき上がってくるかのように表現される。苦悩に満ちながらも何度も繰り返される美しいメロディが、非常に印象的な曲である。

第2曲では、病の苦痛と、罪が生んだ毒の苦さがアルトのレチタティーヴォにより語られる。奏でられる不協和音は、中風で体の自由を失った者の苦しみや不安を表したかのようだ。

その苦悩は罪の報いであること、そして、つぐないが必要なことが第3曲のコラールで示されている。前曲の不安げな印象とは対照的に確信に満ちたコラールである。

神の意志に従い、罪深い肉体を捨て、魂が救われることを願う3拍子のアリアが第4曲で示された後、第5曲では、魂の救済ばかりでなく、病に冒された体も癒して下さる救世主の奇跡が高らかに語られる。

第6曲では、第4曲の「願い」が引き継がれ、罪が赦されることへの確信へと変わり、終曲にて主イエス・キリストへの揺るぎない信仰が重厚なコラールで表現されて終わる。

第1曲の悲哀に満ちながらも美しいメロディに始まり、豊かな和音の響きを持つ終曲のコラールに至っては、キリスト教世界の懐の深さと、それをカンタータに映し込んだバッハの偉大さを感じずにはられません。本日の演奏で、それらの一端だけでも、皆様にお伝えできれば...と思います。

(Yu.Kinoshita)

# カンタータ23番 『汝まことの神にしてダビデの子よ』

## Kantate Nr.23 "Du wahrer Gott und Davids Sohn" BWV 23

用途：トーマス・カントル採用試験；復活祭前第7日曜日

初演：1723年 2月 7日 ライプツィヒにて

22番と並んで、トーマス・カントル採用試験の際演奏されたカンタータで、復活祭前第7日曜日(Estomihiと呼ばれる)の礼拝用。礼拝の前半部に22番、後半に23番が演奏されたと考えられている。内容的にもルカ福音書18章31～34節(22番)、35～43節(23番)と続いている。

エリコの町の信仰ある盲人が、イエスの一行が通り過ぎるのを聞いて、「ダビデの子イエスよ、この私を憐れんでください」と叫んだ。随行者が黙らせようとしたが、ますます激しく叫び続けた。イエスは盲人を呼び寄せ奇跡をおこない、盲を癒した。「あなたの信仰が、あなたを救ったのだ」と。

カンタータは、この盲人の叫びを、苦悩する信徒のそれと置き換えて、神へ憐れみと慰めを訴えかけるかたちで始まる。第1曲目ソプラノ、アルトの二重唱として作曲されたのがそれで、同じ場面をマタイ福音書では二人の盲人として表されているところから、この形式が採用されたのかも知れない。曲は、モルト・アダージョ、ハ短調。

第2曲は盲人の視点に立つ、テノールのレチタティーヴォ。変イ長調一変ホ長調。

第3曲は主を待ち望み仰ぎ見る気持ちを、上昇音型にたくしているよう。テノールとバスの二重唱が、盲人の願いを代弁している。変ホ長調。

第4曲はドイツ語版「アニュス・デイ」(神の小羊、つまりイエス)のコーラル。ワイマール時代の受難曲(消失)に発するとされ、ヨハネ受難曲第2稿にも用いられているそれは、3つの節から成り、変化に富んだ傑作。アダージョ・アンダンテ、ト短調一ハ短調。

一般に信仰心と縁の薄い日本人である私たちが、いかに神への思いを表出しようか、非常に気に掛かるところです。願わくば、“Herr”、“du”、“dich”といった呼びかけが、必要以上に馴れ馴れしくなっていませんように。

(H.Kitoh)

### 22 “Jesus nahm zu sich die Zwölfe”

#### 1. (Arioso e Coro)

Jesus nahm zu sich die Zwölfe und sprach:  
Sehet, wir gehn hinauf gen Jerusalem,  
und es wird Alles vollendet werden,  
das geschrieben ist von des Menschen Sohn.

Sie aber vernahmen der Keines und wussten nicht,  
was das gesaget war.

#### 2. (Aria)

Mein Jesu, ziehe mich nach dir,  
Ich bin bereit, ich will von hier  
und nach Jerusalem zu deinen Leiden gehn.  
Wohl mir! wenn ich die Wichtigkeit  
von dieser Leid- und Sterbenszeit  
zu meinem Troste kann durchgehends wohl verstehn.

#### 3. (Recitativo)

Mein Jesu, ziehe mich, so werd ich laufen;  
denn Fleisch und Blut verstehet ganz und gar,  
nebst deinen Jüngern nicht, was das gesaget war.  
Es sehnt sich nach der Welt und nach dem grössten Haufen,  
sie wollen beiderseits, wenn du verkläret bist,  
zwar eine feste Burg auf Tabors Berge bauen;  
hingegen Golgatha, so voller Leiden ist,  
in deiner Niedrigkeit mit keinem Auge schauen.  
Ach! kreuzige bei mir, in der verderbten Brust,  
zuvörderst diese Welt und die verbotne Lust;  
so werd ich, was du sagst, vollkommen wohl verstehen  
und nach Jerusalem mit tausend Freuden gehen.

### 22 「イエス十二弟子を召し寄せて」

#### 1.(アリオーソと合唱)

イエスは12人を自らのそばに呼びおっしゃった。  
「見よ。私たちはエルサレムへと上っていく  
そうしてすべて完成されるのだ  
人の子について書かれた事は。」

彼らはしかしこのことの一つとして分かりはしなかったし、  
言われたことを分かりはしなかった。

#### 2. (アリア)

我がイエスよ、私をあなたの方へ引き寄せてください。  
私は覚悟しました  
ここからあなたの苦悩のためにエルサレムへ行きますよ。  
私にとって幸せなことです  
もし、私がこの苦難と死の時の重要性を充分理解でき、  
私の慰めとできるのならば。

#### 3. (レチタティーヴォ)

我がイエス 私を引き寄せて下さい。そうすれば私は走れるでしょう。  
なぜなら肉と血があなたの弟子ともども  
おっしゃったことをまったく理解していないのだから。  
それはこの世と群集に目を向けるばかり  
この世や群集もあなたの変容に接すれば  
確かにタボル山に堅く城を建てる気になるでしょう。  
しかし、苦悩でいっぱいゴルゴタに対しては  
あなたが身を低くしているために見る目をもたないのです。  
ああ、十字架に掛けさせてください。この墮落した胸の中で、  
この世と禁断の快楽をなにより先に。  
そうすれば私はあなたのおっしゃったことを完全に理解し  
限りない喜びとともにエルサレムへ向かうでしょう。

#### 4. (Aria)

Mein Alles in Allem, mein ewiges Gut,  
verbessere das Herze, verändere den Mut;  
schlag Alles darnieder,  
was dieser Entsagung des Fleisches zuwider!  
Doch wenn ich nun geistlich ertötet da bin,  
so ziehe mich nach dir in Friede dahin.

#### 5. (Choral)

Ertöt uns durch dein' Güte,  
erweck uns durch dein' Gnad,  
den alten Menschen kränke,  
dass der neu' leben mag  
wohl hie auf dieser Erden,  
den Sinn und all Begehden  
und G'danken han zu dir.

#### 4. (アリア)

私のすべての中のすべて 私の永遠の財産よ  
この心を改善し、気持ちを変えてください。  
すべてを打ち砕いてください  
肉を断念することに背くものを。  
でも私がまさに霊によって死をもたらされる時は  
私をあなたの平安へと引き寄せてください。

#### 5. (合唱)

あなたの善意によって私たちに死なせてください  
あなたの恩寵によって私たちを目覚めさせてください  
古き人を衰えさせ  
新しき人が  
気持ちよくこの地上で生き  
感覚とすべての願いとを考えを  
あなたへ寄せるように。

(歌詞対訳 A.Kawamura)

### 48 “Ich elender Mensch, wer wird mich erlösen”

#### 1. (Coro)

Ich elender Mensch,  
wer wird mich erlösen vom Leibe dieses Todes?

#### 2. (Recitativo)

O Schmerz, o Elend, so mich trifft,  
indem der Sünden Gift bei mir in Brust und Adern wüthet:  
Die Welt wird mir ein Siech- und Sterbehaus,  
der Leib muß seine Plagen  
bis zu dem Grabe mit sich tragen.  
Allein die Seele fühlet das stärkste Gift,  
damit sie angestecket;  
drum, wenn der Schmerz den Leib des Todes trifft,  
wenn ihr der Kreuzkelch bitter schmecket,  
so treibt er ihr ein brünstig Seufzen aus.

#### 3. (Choral)

Soll's ja so sein,  
daß Straf und Pein auf Sünden folgen müssen,  
so fahr hier fort und schone dort  
und laß mich hier wohl büßen.

#### 4. (Aria)

Ach lege das Sodom der sündlichen Glieder,  
wofem es dein Wille, zerstöret dar nieder!  
Nur schone der Seele und mache sie rein,  
um vor dir ein heiliges Zion zu sein!

#### 5. (Recitativo)

Hier aber tut des Heilands Hand  
auch unter denen Toten Wunder,  
scheint deine Seele gleich erstorben,  
der Leib geschwächt und ganz verdorben,  
doch wird uns Jesu Kraft bekannt:  
er weiß im geistlich Schwachen  
den Leib gesund, die Seele stark zu machen.

### 48 「われ悩める人、われをこの死の体より」

#### 1. (合唱)

私、哀れなる人間、  
誰が私を救ってくれるのだろうか この死すべき肉体から

#### 2. (レチタティーヴォ)

なんという苦痛、なんという悲惨さ、それらが私を傷つける  
罪が生んだ毒が私の心臓と血管で暴れる。  
この世は私には病と死の家である  
肉体はその苦しみを  
墓まで運ばなければならない。  
しかし精神は強い毒を感じると  
それを針で留めておく。  
それゆえ死すべき肉体が苦痛にさらされているとき  
あなた方が十字架の盃の苦味を感じたとき  
精神はあなた方から強い溜め息を吐き出す。

#### 3. (合唱)

そうであるならば  
罰と苦しみが罪を追いかけて行くに違いない  
それらはここを去り、既にあちらにいる  
そして私はここに留まり、十分に罪を償う。

#### 4. (アリア)

ああ、ソドム\* に罪深い手足を横たえよ、  
それがあなたの意志ならば、破壊して下さい。  
ただ、精神をいたわり、それを浄化するだけで、  
あなたの前では神聖なシオンになる。

\* ソドム 創世記に出てくる退廃の町・悪徳の巢

#### 5. (レチタティーヴォ)

ここにしかし、救世主の手が起こす、  
死のもとにもまた奇跡を  
すぐ、あなたの精神に輝きが現れる  
肉体は弱く、全く墮落する  
だが私たちはイエスの力を知ることになる。  
彼は知っている、霊が弱くとも  
肉体を健全に、精神を強く変えることを。

## 6. (Aria)

Vergibt mir Jesus meine Sünden,  
so wird mir Leib und Seel gesund.  
Er kann die Toten lebend machen  
und zeigt sich kräftig in den Schwachen;  
er hält den längst geschlossenen Bund,  
daß wir im Glauben Hilfe finden.

## 7. (Choral)

Herr Jesu Christ, einiger Trost,  
zu dir will ich mich wenden;  
mein Herzleid ist dir wohl bewußt,  
du kannst und wirst es enden.  
In deinen Willen sei's gestellt,  
mach's lieber Gott, wie dir's gefällt;  
dein bin und will ich bleiben.

## 6. (アリア)

私を赦して下さい、イエスよ、私の罪を  
私の肉体と精神が健全になるように。  
彼は死を生にすることができる  
そして(私たちの)弱さの中に彼の力を指し示す。  
彼はとても長い間結ばれている契約を守る  
私たちが信念の中に救いを見つけ出せるように。

## 7. (合唱)

主イエスキリスト、ただひとつの慰め  
あなたに私は自らを向ける。  
私の心の悲しみをあなたはよく知っている  
あなたはその悲しみを終わらせる力があり、それを終わらせてくれる。  
あなたの意志のもとに応じます  
自らの望むままにされる大事な神よ、  
あなたのもとに私はいます、これからも留まり続けます。

(歌詞対訳 K.Nakagami)

## 23 “Du wahrer Gott und Davids Sohn”

### 1. (Aria Duetto)

Du wahrer Gott und Davids Sohn,  
der du von Ewigkeit in der Entfernung schon  
mein Herzeleid und meine Leibespein  
umständlich angesehen, erbarm dich mein!  
Und laß durch deine Wunderhand,  
die so viel Böses abgewandt,  
mir gleichfalls Hülf und Trost geschehen.

### 2. (Recitativo con Stromenti)

Ach, gehe nicht vorüber,  
du, aller Menschen Heil, bist ja erschienen,  
die Kranken und nicht die Gesunden zu bedienen.  
Drum nehm ich ebenfalls an deiner Allmacht teil;  
ich sehe dich auf diesen Wegen,  
worauf man mich hat wollen legen,  
auch in der Blindheit an.  
Ich fasse mich und lasse dich  
nicht ohne deinen Segen.

### 3. (Coro)

Aller Augen warten, Herr,  
du allmächtger Gott, auf dich,  
und die meinen sonderlich,  
Gib denselben Kraft und Licht,  
laß sie nicht immerdar in Finsternissen!  
Künftig soll dein Wink allein  
der geliebte Mittelpunkt aller ihrer Werke sein.  
bis du sie einst durch den Tod  
wiederum gedenkst zu schließen.

### 4. (Choral)

Christe, du Lamm Gottes,  
der du trägst die Sünd der Welt,  
erbarm dich unser!

Christe, du Lamm Gottes,  
der du trägst die Sünd der Welt,  
gib uns dein'n Frieden! Amen.

## 23 「汝まことの神にしてダビデの子よ」

### 1. (二重唱アリア)

まことの神でありダビデの子であるあなたよ  
永遠の昔からはるか遠くから  
私の心の苦悩と肉体の痛みを  
つぶさに見つめられていらしたあなた、私を憐れんでください。  
そして、幾多の悪魔をかわしてきた  
あなたの奇跡の御手によって  
私にも救いと安らぎをもたらしてください。

### 2. (レチタティーヴォ[楽器コラール付])

通り過ぎていかないでください  
総ての人の救いである、あなたは、病める人に仕えるためにこそ  
現れたのであって、健康な人のためではないのです。  
それゆえ私もあなたの全能を享受できるのです。  
私はあなたをこの道で見つめます  
世の人に打ちのめされたこの道で、  
見えないこの目で。  
私は心を決めます。  
あなたは通り過ぎるとき、私を祝福して下さい。

### 3. (合唱)

すべての人の目は、主よ、  
全能の神よ、あなたを待つ  
とりわけ私の目は。  
この目に力と光を与えてください。  
いつまでも暗闇の中におかないでください。  
これからはただあなたの暗示することだけを  
求める中心にします。すべての目の働きを  
いつかあなたがこの目を死によって  
再び閉じようとするまでは。

### 4. (合唱)

キリストよ、神の子羊よ  
世の罪を担ってくださったあなた  
我らを憐れんでください。

キリストよ、神の子羊よ  
世の罪を担ってくださったあなた  
我らに安らぎを与えてください。アーメン

(歌詞対訳 A.Kawamura)

Ensemble 14 指揮者。東京芸術大学声楽科卒業 及び 同大学院独唱科修了。声楽を渡邊高之助、宗教音楽を小林道夫、佐々木正利の各氏に師事。1985年イタリアのミラノを中心にヨーロッパへ音楽遊学。L.グッアリーニ女史、F.タリアヴィーニ、H.リリングらの各氏に師事。1986年イタリアのノバラ市国際声楽コンクール入賞。同年ドイツのハイデルベルク、1988・89年にはウィーン楽友協会大ホール、2000年にはカイザースラウテルン、パッサウ他、数都市でベートーヴェン“第9”のソリストを努め、ヨーロッパ各地でコンサートに出演し好評を博す。国内でもドイツ・イタリア・日本歌曲を中心に各地でユニークなリサイタル活動を展開し、その優れた演技力と歌唱は、新聞・音楽誌上でも度々絶賛された。宗教音楽の演奏家としての活躍は特に目覚ましく、バッハ・ヘンデル・ハイドンの宗教曲・オラトリオの演奏では、ソリスト・エヴァンゲリスト・また指揮者として、その活動は常に注目を集めている。洗足学園大学附属高等学校音楽科講師、品川介護福祉専門学校講師、ぐるーぷ・なーべ幹事、日本合唱指揮者協会実行委員、川崎市民オペラ理事、iARTS理事。共著に「わかって歌おうーレクイエム発音講座」がある。

アンサンブル・フィアツェン  
**Ensemble14**

辻 秀幸先生の呼びかけにより、J. S. バッハのマタイ受難曲を歌う目的で1998年8月に発足したアマチュア合唱団。“14”(vierzehn)はバッハ自身も用いたといわれるBachを表す数字で、b = 2、a = 1、c = 3、h = 8 を足し合わせたもの。1999年4月奥沢教会(世田谷区)にて「マタイを歌う会」とともにマタイ受難曲の抜粋演奏(ピアノ伴奏)に参加。同9月に第一回演奏会でカンタータ150番、155番、106番を演奏。2000年4月に田園調布教会におけるマタイ受難曲の全曲演奏に第二コーラスとして出演し、同9月に第二回演奏会で、カンタータ196番、131番、182番を演奏した。

## Ensemble14 メンバー

指揮者 : 辻 秀幸                      練習ピアニスト : 田城 章子  
代表 : 中神 康一                      副代表 : 武内 崇史 ・ 内藤 秀司

Soprano 加藤かおり 川村 昌子 木藤 裕子 木下 祐子 小林 総子 中神 幸徳 林 玲子 室橋 明美  
(大久保淳子 大山永里子 鹿島 晶子 田中百合子 難波 愛 山崎 晃子)  
Alto 富岡 愛子 中神 康一 松木えい子 (大石 明子 日向 典恵)  
Tenor 小泉 孝博 小林 尚弘 内藤 秀司 室橋 義明 山田 陽史 (中原 浩一)  
Bass 大石 峰士 太田 浩樹 木下 陽児 武内 崇史 (佐藤 紀之 林 秀博)

### ☆ 一緒に歌いませんか ☆

Ensemble14では一緒に歌って下さる方を随時募集しております。バッハが大好きな方はもちろん、バッハが初めての方も歓迎です。次の演奏会は2001年 9月29日(土)に川口総合文化センターリア音楽ホールでカンタータ1番、27番、140番の演奏を行う予定です。

指 導                      辻 秀幸 先生  
練習日                      毎週土曜日(10:00~12:00 または 13:00~17:00)  
練習場所                      自由が丘(東急東横線・大井町線)  
                                    武蔵小杉(東急東横線)など  
お問い合わせ                      大石(Tel 03-3886-1147) 室橋(email YRM01040@nifty.ne.jp)  
ホームページ                      <http://www.netpassport.or.jp/~wkgami/ensemble14>